

クレジット:

UTokyo Online Education 学術俯瞰講義 2017 武内和彦

ライセンス:

利用者は、本講義資料を、教育的な目的に限ってページ単位で利用することができます。特に記載のない限り、本講義資料はページ単位でクリエイティブ・コモンズ 表示-非営利-改変禁止 ライセンスの下に提供されています。

<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/>

本講義資料内には、東京大学が第三者より許諾を得て利用している画像等や、各種ライセンスによって提供されている画像等が含まれています。個々の画像等を本講義資料から切り離して利用することはできません。個々の画像等の利用については、それぞれの権利者の定めるところに従ってください。

2017年Sセメスター学術俯瞰講義
「地球と社会の未来を拓く」

持続可能な開発目標(SDGs)の達成が 持続可能な未来を拓く

武内和彦

東京大学国際高等研究所

サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)機構長

2017年4月6日 16:50-18:35

21KOMCEE West レクチャーホール

学術俯瞰講義「地球と社会の未来を拓く」

<講義概要>

2015年に国際連合が採択した持続可能な開発目標（SDGs）を2030年までに達成することは、国際社会に課せられた包括的で重要な課題である。人間活動が地球の限界を超えようとしているいま、いかに地球の許容範囲内で豊かな人間社会を築きあげていくのかが問われているこの学術俯瞰講義では、次世代を担う学生諸君と一緒に、世界、アジア、日本に注目しながら、社会・文化、教育、エネルギー、地域経済、健康などに焦点をあて、サステナビリティ学の視点から、地球と地域の持続可能な未来を切り拓く長期的な道筋を考えていきたい。

講師および演題

4月6日: 武内和彦「持続可能な開発目標が持続可能な未来を拓く」

4月13・20日: 福士謙介「地球環境変動が未来社会に及ぼす影響」

4月27日、6月8日: 大岡龍三「サステイナブルな建築と都市の環境」

5月11日: 北村友人「アジアにおける持続可能な開発のための教育」

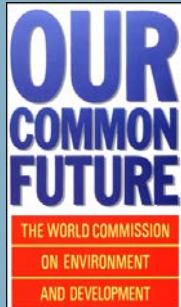
5月18日: 古田元夫「社会・文化の面から見たアジアのサステイナ
ビリティ学」

5月25日: 味埜俊「日本が世界のサステイナビリティに貢献できること」

6月15日: 櫛屋勝巳「地域再生における再生可能エネルギーの活用」

6月22・29日: 松田浩敬「地域社会のサステイナビリティ」

7月6・13日: 関山牧子「社会変動と人間のサステイナビリティ」



1972年 国連人間環境会議（ストックホルム会議）

1987年 『ブルントランド委員会報告書 (Brundtland Report)
– Our Common Future –』

1992年 環境と開発に関する国連会議（UNCED：地球サミット）

- ⇒「環境と開発に関するリオ宣言」「アジェンダ21」の採択
- ⇒「気候変動枠組条約 (UNFCCC)」「生物多様性条約 (CBD)」の採択
- ⇒「地球環境ファシリティ (GEF)」「国連持続可能な開発委員会 (UNCSD)」の創設



1995年 世界社会開発サミット

2000年 国連ミレニアムサミット⇒「ミレニアム開発目標 (MDGs)」の検討、採択 (2001年)

2002年 持続可能な開発に関する世界首脳会議
(WSSD：ヨハネスブルグ・サミット)
⇒「ヨハネスブルグ実施計画」の採択



2012年 国連持続可能な開発会議（UNCSD, Rio+20）

2015年以降の「開発」アジェンダ／持続可能な開発目標（SDGs）

我々の世界を変革する

持続可能な開発のための2030アジェンダ

持続可能な開発 (Sustainable Development)

「環境と開発に関する世界委員会
(ブルントラント委員会)」(1987年)が
提唱

著作権等の都合により、
ここに挿入されていた画像を
削除しました。

元ノルウェー首相グロ・ハーレム・ブルントラントの写真

- 「次世代のニーズを損なわずに現世代のニーズを追求すること」と定義
- 経済と環境は共存可能であることを主張
- 「サステイナビリティ」が世界のキーワードとなる
- 学術的な検討や課題解決の方策は、大きな課題

ミレニアム開発目標(MDGs) － 2015年までの国際開発目標 －

一般社団法人日本UNEP協会(国連環境会議) <http://j-unep.jp/>

2030年持続可能な開発目標と国際環境ガバナンス http://j-unep.jp/address1_norichika_kanie.pdf p.12

目標と主なターゲット



目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅

- ・ 1日1.25ドル未満で生活する人口の割合を半減させる
- ・ 飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる



目標2: 初等教育の完全普及の達成

- ・ すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする



目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上

- ・ すべての教育レベルにおける男女格差を解消する



目標4: 乳幼児死亡率の削減

- ・ 5歳未満児の死亡率を3分の1に削減する



目標5: 妊産婦の健康の改善

- ・ 妊産婦の死亡率を4分の1に削減する



目標6: HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止

- ・ HIV／エイズの蔓延を阻止し、その後減少させる



目標7: 環境の持続可能性確保

- ・ 安全な飲料水と衛生施設を利用できない人口の割合を半減させる



目標8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

- ・ 民間部門と協力し、情報・通信分野の新技术による利益が得られるようにする

＊ロゴは「特定非営利活動法人ほっとけない 世界のまずしさ」が作成したもの。

MDGs進捗・チャート 2014

	目標	目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅			目標2: 初等教育の完全普及の達成	目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上			目標4: 乳幼児死亡率の削減	目標5: 妊産婦の健康の改善		目標6: HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病のまん延の防止		目標7: 環境の持続可能性確保			目標8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進
		極度の貧困半減	生産的かつ適切な雇用	極度の飢餓半減	初等教育の完全普及	初等教育における女性の就学率	女性資金芳療者の割合	国会における女性の議員の割合	5才以下死亡率2/3削減	妊産婦死亡率3/4削減	リプロダクティブ・ヘルスへのアクセス	HIV/エイズまん延防止	結核まん延防止	安全飲料水のない人口半減	衛生設備のない人口半減	スラム居住者の生活改善	インターネット利用者
アフリカ	北																
	サブ・サハラ																
アジア	東																
	東南																
	南																
	西																
オセアニア																	
ラ米・カリブ																	
中央アジア・コーカサス																	

◆情報源: FAO, IPU, ILO, ITU, UNAIDS, UNESCO, UN-HABITAT, UNICEF, 国連人口部, 世銀, WHOにより提供された2014年6月現在のデータ及び推計。

◆枠内の色は、2015年の目標達成に向けた進展の度合いを表したものである。従って、各地域の状況の良し悪しと関連がある場合が多いが、必ずしも各地域の状況自体を表したものではない。

目標達成済み、または、2015年までに目標達成が見込まれる。

進展なし、または、悪化。

編集: 国連経済社会局統計部(外務省仮託)

現状のままでは2015年には目標達成不可能。

データが不十分。

一般社団法人日本UNEP協会(国連環境会議) <http://j-unesp.jp/>
2030年持続可能な開発目標と国際環境ガバナンス
http://j-unesp.jp/address1_norichika_kanie.pdf p.13

ポストMDGs=MDGsで未達成の課題

外務省ホームページより

主たるMDGsの評価

評価された点

内容:

• **貧困レベル等の改善**、開発援助の増進、多様なステークホルダーの参加促進 (UNGA 2011a; UNDP 2011)

目標設定:

• **セクター間のリンケージ** (Vandermoortele 2011)

• 明確で包摂的な目標設定

制度のあり方:

• 効果的な実践を確保するための制度の存在

• **結果ベースのマネジメント方法** (Result-base management) の定着化

資金確保:

• **ODAの増加**、途上国で貧困撲滅などに関する政策の優先順位を上げた (Moss 2010; Pollard et al. 2010; Manning 2010; Vandermoortele 2011)

改善すべき点

• 各MDG目標における具体性欠如によりいくつかのMDGsは達成できず
⇒ **実効性の強化**が必要

• MDGsは “One size fits all” 型
⇒ 各国や各目標の達成度における「ギャップ」が存在 (Verdenmoortele 2011)
⇒ 重要課題も含めた **ユニバーサルな目標設定** と (**国・地域・地方等**) **個別目標**

• MDGs達成後の目標、課題間のリンケージが欠如 ⇒ その後の **ロードマップ** が見えない
⇒ 中間目標 (intermediate) 目標を定め、目標達成の基準を明確化 (Poku et al. 2011; Moss 2010; Verdenmoortele 2011; Guardian 2010; Koehler et al, 2012).

一般社団法人日本UNEP協会(国連環境会議) <http://j-unep.jp/>
2030年持続可能な開発目標と国際環境ガバナンス
http://j-unep.jp/address1_norichika_kanie.pdf p.14

持続可能な開発目標(SDGs)とは？

一般社団法人日本UNEP協会(国連環境会議) <http://j-unep.jp/>

2030年持続可能な開発目標と国際環境ガバナンス

http://j-unep.jp/address1_norichika_kanie.pdf p4

- 2012年のリオ+20（国連持続可能な開発会議）により設定が合意された国際目標
 - ポスト2015年開発アジェンダ（ミレニアム開発目標後の国際目標）に統合
- 2013年～2014年 国連でのオープンな作業部会（OWG）による国際交渉
 - 2014年の国連総会でOWG提案採択（17目標、169ターゲット）
- 2015年 ポスト2015年開発目標交渉
- 2015年9月国連総会にて採択



- 『目標 – ターゲット – 指標』の三重構造
- 進捗状況のモニタリングと評価を実施（法的義務はなし）
- 2030年を目指した目標
- グローバルな性質ですべての国に普遍的に適用可能
- 様々な国別の状況、能力、開発レベルや政策及びその優先順位を考慮



Rio+20を契機とした ステークホルダーのパートナーシップ

- ◆ Rio+20は国連の会議としては約4万5千人という史上最大の参加があった
- ◆ 持続可能な社会の構築には**多様な主体のパートナーシップ**による取組が重要であることが強調される
- ◆ 日本では、9つのメジャーグループを招集し、**Rio+20国内準備委員会**を設置
震災の経験を世界と共有する意義を認識
- ◆ 成果文書「The Future We Want(我々の望む未来)」が採択
- ◆ **持続可能な開発目標(SDGs)**策定プロセスの開始に合意



SDGsを作り上げたプロセスの工夫

1. オープンな作業部会(OWG)の2／3はステークホルダーや研究者を招いた現状把握

- 科学と政策のインターフェイスが強化
- 実質ベースの議論が可能に

⇒ 結果として、通常的外交文書で使えないような(科学的)言語が成果文書に



2. 「30の政府専門家」が70ヶ国によって共有

- 伝統的な交渉連合(coalition)がくずれ、実質的論議可能に

3. 共同議長(ケニア国連大使とハンガリー国連大使)の信頼に基づいたテキスト交渉

- 未決事項を括弧【】に入れるのではなく、全て議長預かりでの文書決定

持続可能な開発目標(SDGs)

United Nations
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
<http://www.un.org/sustainabledevelopment/>

- ◆ 「ミレニアム開発目標(MDGs)」は、2015年までに開発分野において達成すべき国際社会共通の目標
- ◆ ポスト2015年開発目標として途上国向けのMDGs(8目標)から、**世界共通の地球規模課題(universality)**を取り上げる「持続可能な開発目標(SDGs)」(17目標と169ターゲット)へ展開
- ◆ 2015年9月に採択されたSDGsは、**貧困と飢餓の終焉、健康と教育の改善、都市の持続可能性向上、気候変動対策、海洋と森林の保護**など、幅広く持続可能な開発課題をカバー
- ◆ SDGsを達成するための5つの主要要素として**人(people)、地球(planet)、平和(peace)、繁栄(prosperity)、パートナーシップ(partnership)**を提唱
- ◆ 従来よりも**人が中心(people-centred)**で**地球にやさしい(planet-sensitive)** 全体的(holistic)アプローチと、活動の実施とその効果のモニタリングについての**測定可能性(measurability)**を重視
- ◆ 持続可能な発展は、**環境、経済、社会**の3つの側面に支えられ、環境保護(environmental protection)、経済成長(economic growth)、社会的公平(social equity)といった**目標の達成バランス**によって成立

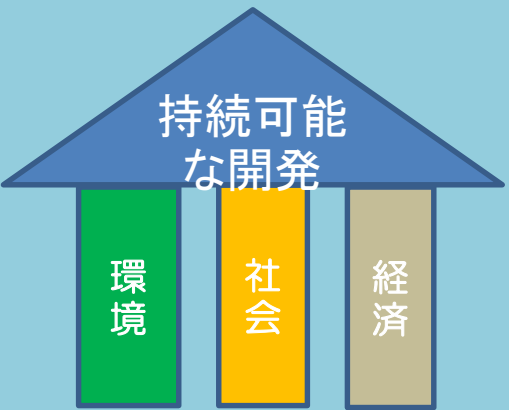
<https://macaulay.cuny.edu/eportfolios/akurry/files/2011/12/SDspheres.jpg>



SDGs達成するための5つの主要要素

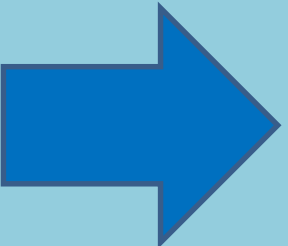


経済・社会・環境の3側面を統合することが実施では重要に



将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発

20世紀型
持続可能な開発
(MDGs型)



David Griggs et al. 'Sustainable Development Goals for People and Planet.' *Nature* (Vol 495, 21 March 2013).

現在及び将来の世代の人類の繁栄が依存している地球の生命維持システムを保護しつつ、現在の世代の欲求を満足させるような開発

21世紀型
持続可能な開発

MDGsの残された課題の達成

目標と主なターゲット



目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅

- ・ 1日1.25ドル未満で生活する人口の割合を半減させる
- ・ 飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる



目標2: 初等教育の完全普及の達成

- ・ すべての子どもが男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする



目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上

- ・ すべての教育レベルにおける男女格差を解消する



目標4: 乳幼児死亡率の削減

- ・ 5歳未満児の死亡率を3分の1に削減する



目標5: 妊産婦の健康の改善

- ・ 妊産婦の死亡率を4分の1に削減する



目標6: HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止

- ・ HIV/エイズの蔓延を阻止し、その後減少させる



目標7: 環境の持続可能性確保

- ・ 安全な飲料水と衛生施設を利用できない人口の割合を半減させる



目標8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

- ・ 民間部門と協力し、情報・通信分野の新技術による利益が得られるようにする

※ロゴは「特定非営利活動法人はっとけい 世界のまずしさ」が作成したもの。

地球システムの 限界からもたらさ れる課題

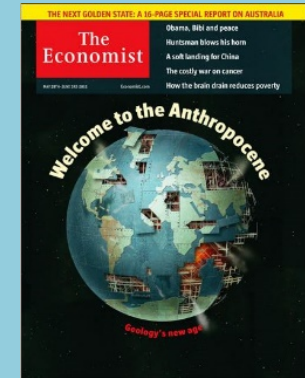
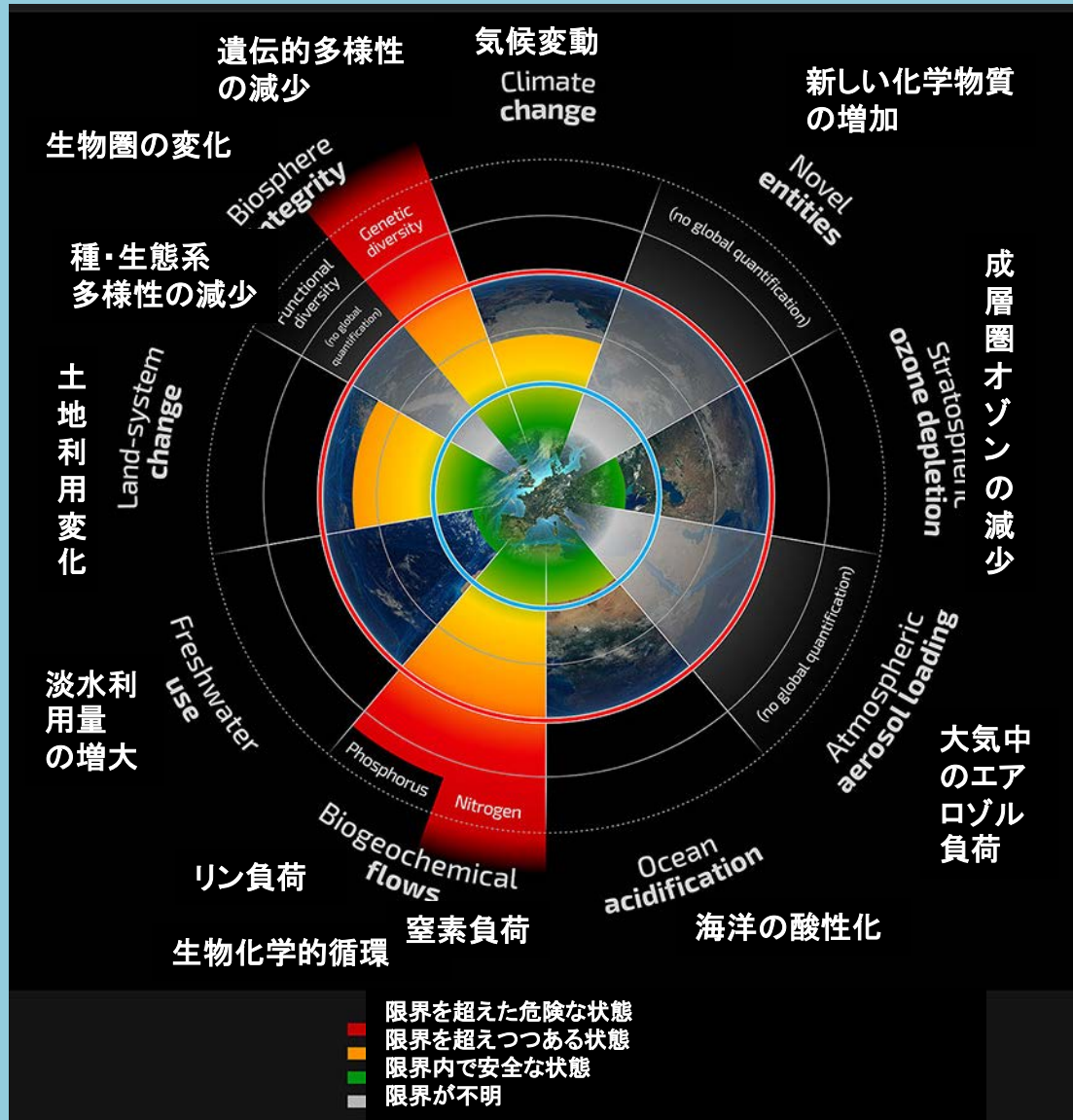
大前提



社会的な持続可能性 (公平性等)



プラネタリーバウンダリー



⇒ 環境問題の「質」の変化
身近な環境問題から
これにプラスして地球変動
の課題へ
Cf.「人類世
(anthropocene)」
(Crutzen 2002)

グローバルコンパクトネットワークジャパン (国連
グローバルコンパクトの日本支部)
<http://ungcjp.org/index.html>
SDGsとは何か？なにをすれば良いのか？
ーいま求められることー
http://ungcjp.org/common/frame/plugins/fileUD/download.php?type=contents_files&p=element_s_file_2687.pdf&token=3fcbef2fbd92a13ea06a34845a3c52beb8cd3cc0&t=20160617204654 P5

Steffenら、2015,
Scienceより作成

THE GREAT ACCELERATION

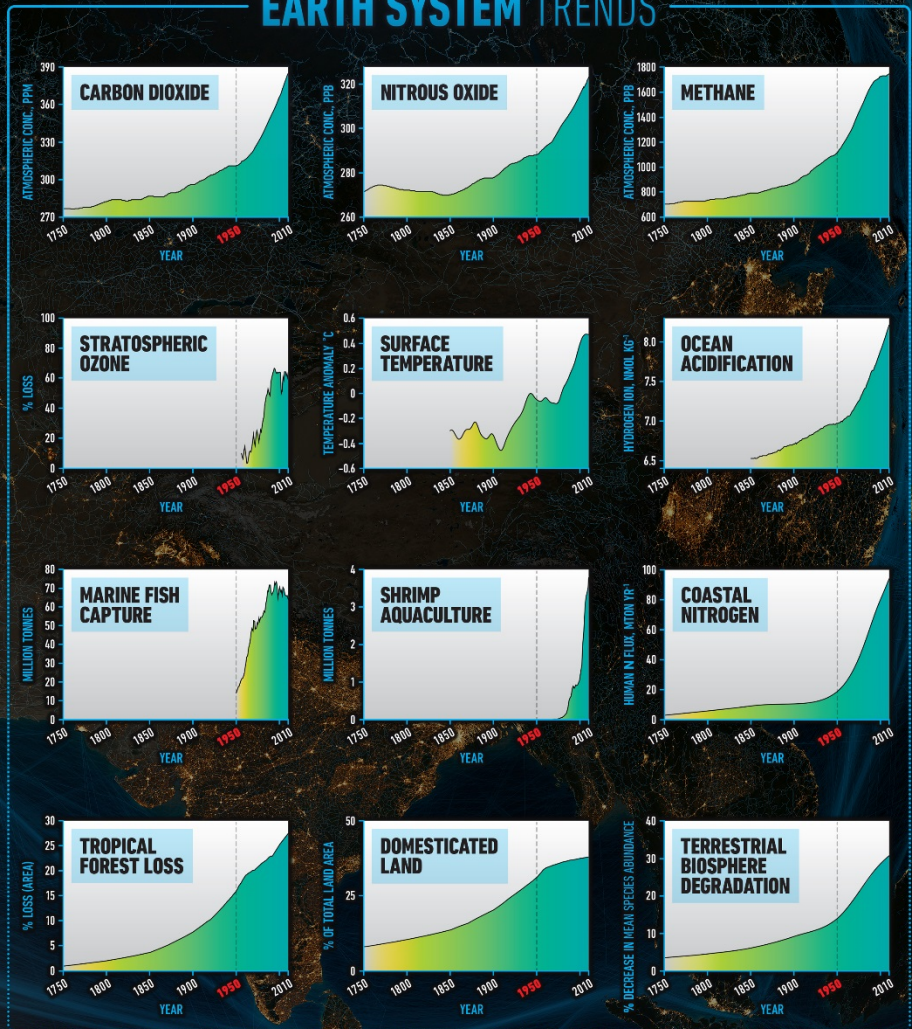
一般社団法人日本UNEP協会(国連環境会議) <http://j-unep.jp/>

2030年持続可能な開発目標と国際環境ガバナンス http://j-unep.jp/address1_norichika_kanie.pdf p18

SOCIO-ECONOMIC TRENDS



EARTH SYSTEM TRENDS



REFERENCE: Steffen, W., W. Broadgate, L. Deutsch, O. Gaffney and C. Ludwig (2015). The Trajectory of the Anthropocene: the Great Acceleration, Submitted to *The Anthropocene Review*.

MAP & DESIGN: Félix Pharand-Deschênes / Globaia



限りある資源をいかに分け合いながら共存するか？

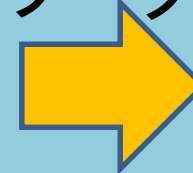


Globaia 「Welcome to the Anthropocene」
<http://www.anthropocene.info/short-films.php>

2030年へ向けたSDGsのチャレンジ

1. MDGsの残された課題 (human well-being)
2. 地球システムの限界からもたらされる新たな課題 (気候変動の植生・健康への影響など)
 - 問題の相互関係・相互作用 (規模や範囲を超えて): ある国での原因が他の国での影響に
3. ガバナンス: 多様なステークホルダー
 - 多様な課題解決
 - 新たな考え・アイディア・ネットワーク
 - ステークホルダーの巻き込み

国家を超えた
21世紀型の問題
解決



一般社団法人日本UNEP協会 (国連環境
会議) <http://j-unesp.jp/>
2030年持続可能な開発目標と国際環境
ガバナンス
http://j-unesp.jp/address1_norichika_kanie.pdf
p20

David Griggs, Mark Stafford-Smith, Owen Gaffney, Johan Rockstrom, Marcus C Ohman, Priya Shyamsundar, Will Steffen, Gisbert Glaser, Norichika Kanie and Ian Noble, 'Sustainable Development Goals for People and Planet.' *Nature* (Vol 495, 21 March 2013).

「開発」から「持続可能な開発」へ



17 目標
169 ターゲット
240の指標

国連広報センターSDGsロゴ
http://www.un.org/ja/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_logo/
日本語ガイドライン
[http://www.un.org/ja/files/UN-Guidelines-for-Use-of-SDG-logo\(JP\)-and-17-icons.march-2017.pdf](http://www.un.org/ja/files/UN-Guidelines-for-Use-of-SDG-logo(JP)-and-17-icons.march-2017.pdf)

持続可能な開発目標(SDGs)

- 目標 1. あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
- 目標 2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
- 目標 3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
- 目標 4. すべての人々への包摂的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
- 目標 5. ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女子のエンパワーメントを行う
- 目標 6. すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
- 目標 7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保する
- 目標 8. 包摂的かつ持続可能な経済成長、およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用とディーセント・ワーク(適切な雇用)を促進する
- 目標 9. レジリエントなインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進、およびイノベーションの拡大を図る
- 目標 10. 各国内および各国間の不平等を是正する
- 目標 11. 包括的で安全かつレジリエントで持続可能な都市および人間居住を実現する
- 目標 12. 持続可能な生産消費形態を確保する
- 目標 13. 気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる
- 目標 14. 持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続的に利用する
- 目標 15. 陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・防止および生物多様性の損失の阻止を促進する
- 目標 16. 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会の促進、すべての人々への司法へのアクセス提供、およびあらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度の構築を図る
- 目標 17. 持続可能な開発のための実施手段の強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する



SDGsの特徴

長所とされることの多い点

- ❑ **包括性**：「誰一人取り残されない」
- ❑ **普遍性**：先進国・途上国ともに適用
- ❑ **多様性**：目標値は（世界全体の達成目標を視野に入れた上で）国レベルで設定可。指標は地域・国レベルで補完される。
- ❑ **統合性**：経済、社会及び環境の3つの次元が統合へ。
- ❑ **行動性**：具体的行動の実施へ。

批判の多い点

- ❑ 多すぎる目標（17 Goalsと169 Targets）
- ❑ 理解が容易ではない。
- ❑ 先進国における関心が低い。
- ❑ 法的拘束力がない。



SDGsは新しいかたちのグローバル・ガバナンス

これまで
主流

経済産業省海外展開戦略タスクフォース資料 P7

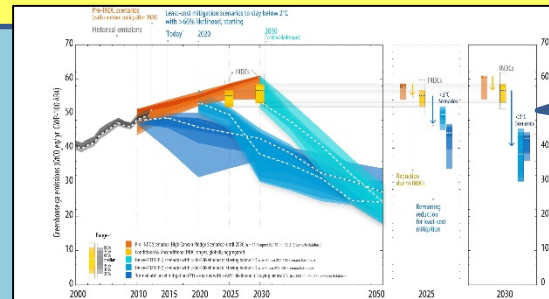
http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/energy_environment/ondanka_platform/kaigai_tenkai/pdf/005_02_00.pdf

国際条約 (例 - 気候変動枠組条約)
⇒ 国際ルールをつくるガバナンス



→ できることの積み上げ式で
必要なアクションがとれず (フォアキャスティング)

SDGs



パリ協定実施でも
脱炭素目標とは大
きなギャップが!

- ❑ 野心レベルの提示からスタート (バックキャスティング)
- ❑ 実施メカニズム・法的拘束力はなし (各主体が自由につくる)
- ❑ モニタリングと評価のみ



SDGsのモニタリング・評価プロセスにおける 科学とステークホルダーの協働

SDGsは目標／ターゲット／指標とその進捗評価

⇒ 人間の福利向上 (human wellbeing) と地球
システムの保全 (planetary wellbeing) 双方の評
価には科学的な役割が大



科学の側も実践的取り組みを重視 (超学際研究)

⇒ Co-design, Co-production,
Co-delivery

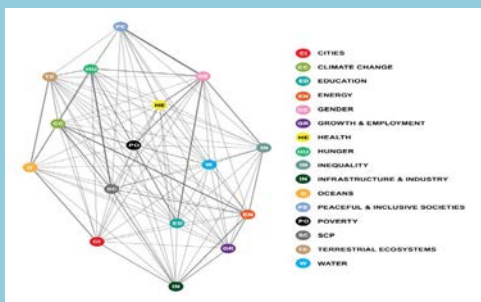
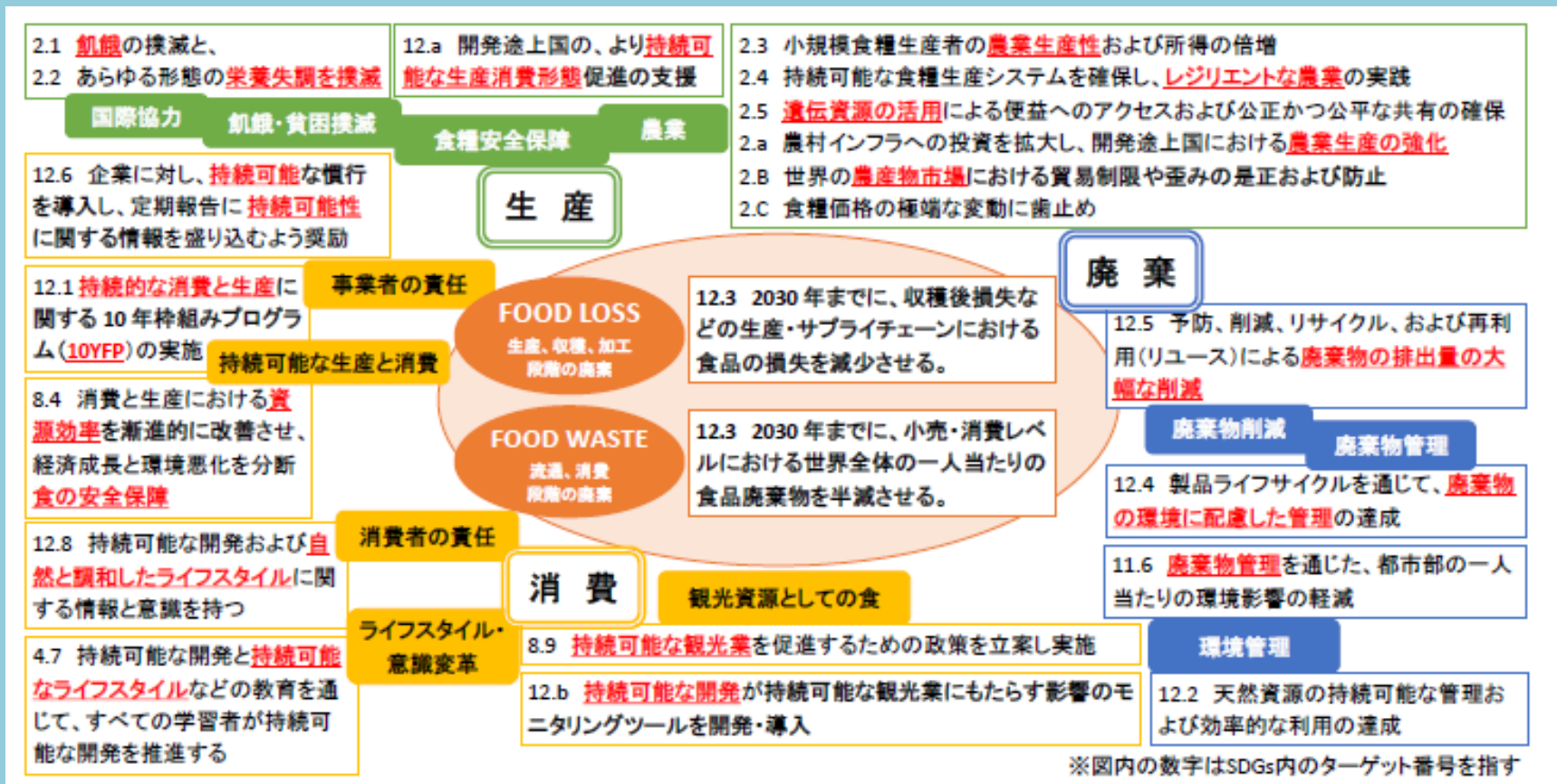


SDGsを達成するための6つの主要要素と アフリカの農村の文脈で関連する指標

SDGs達成のための6つの主要要素 (UN General Assembly, 2014)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	アフリカの農村の文脈で関連する指標
	貧困	飢餓・食料	健康・福祉	教育	ジェンダー平等	水・衛生	近代エネルギー	雇用	インフラ・産業	不平等	居住地	消費・生産	気候変動対策	海洋資源	陸上生態系	平和・包摂的社会	パートナーシップ	
尊厳 <i>Dignity</i>																		要素1「尊厳」は全ての目標と関連、特に目標1, 5, 10
人 <i>People</i>																		保健、教育、住居、衛生、食料安全保障
繁栄 <i>Prosperity</i>																		収入／雇用、水、電気、道路インフラ
地球 (=生態系) <i>Planet = Ecosystems</i>																		農業、環境保全、薪燃料、災害管理
正義 <i>Justice</i>																		良い統治、平和、安全
パートナーシップ <i>Partnership</i>																		要素6「パートナーシップ」は全ての目標と関連、特に目標17

草苅康子による

具体的課題解決には多くのSDGsが相互連関



例: 食品問題(食料ロス・食品廃棄物等)とSDGs

グローバルコンパクトネットワークジャパン(国連グローバルコンパクトの日本支部) <http://ungcn.org/index.html>

SDGsとは何か? なにをすれば良いのか? - いま求められること -

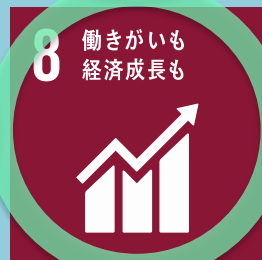
http://ungcn.org/common/frame/plugins/fileUD/download.php?type=contents_files&p=elements_file_2687.pdf&token=3fcbef2bfd92a13ea06a34845a3c52beb8cd3cc0&t=20160617204654_P8

自然共生社会とSDGs

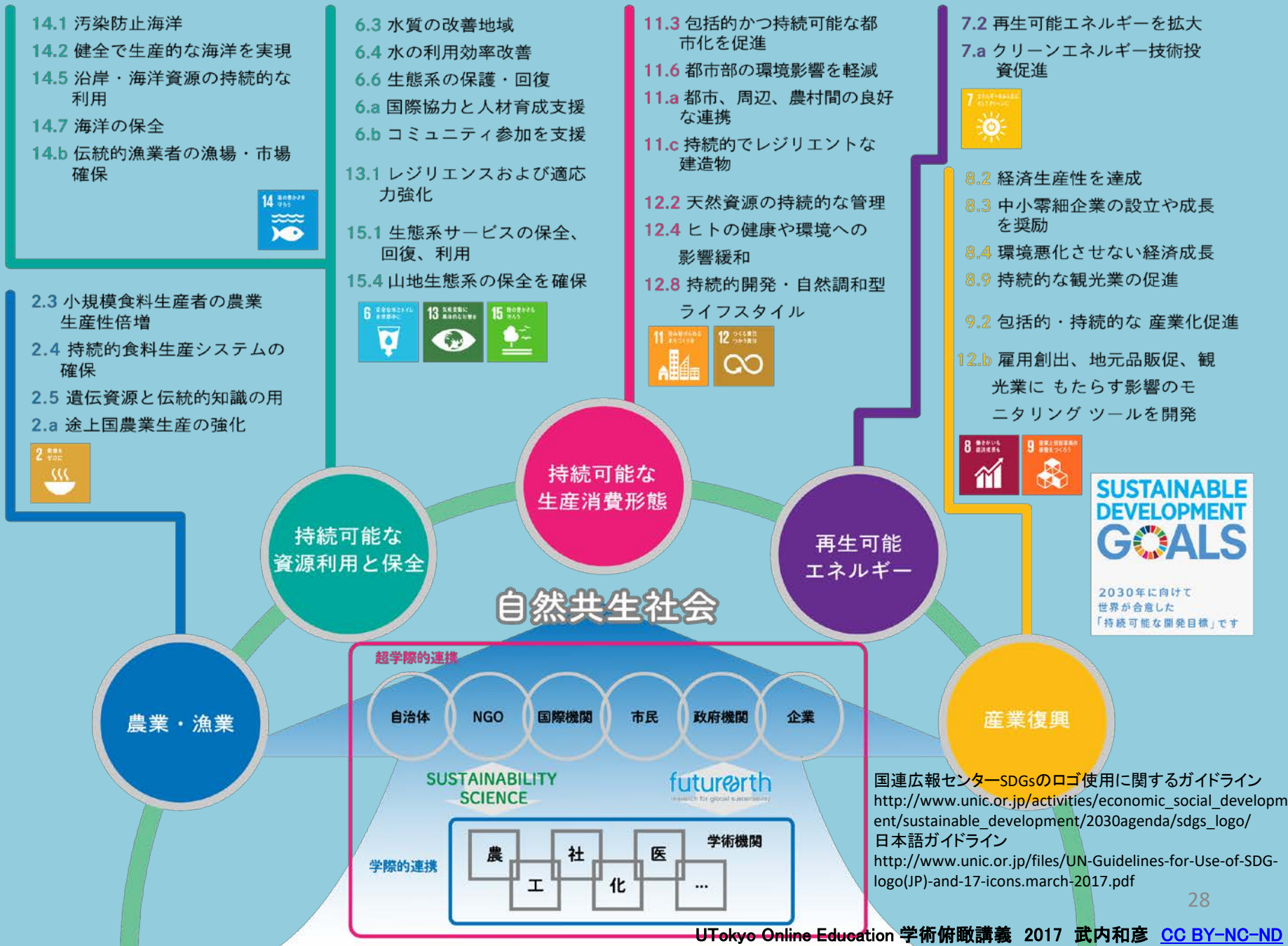
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

国連広報センターSDGsロゴ
http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_logo/
日本語ガイドライン
[http://www.unic.or.jp/files/UN-Guidelines-for-Use-of-SDG-logo\(JP\)-and-17-icons.march-2017.pdf](http://www.unic.or.jp/files/UN-Guidelines-for-Use-of-SDG-logo(JP)-and-17-icons.march-2017.pdf)



自然共生社会とSDGs



開発途上国における環境・健康とSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

国連広報センターSDGsロゴ
http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_logo/
日本語ガイドライン
[http://www.unic.or.jp/files/UN-Guidelines-for-Use-of-SDG-logo\(JP\)-and-17-icons.march-2017.pdf](http://www.unic.or.jp/files/UN-Guidelines-for-Use-of-SDG-logo(JP)-and-17-icons.march-2017.pdf)



開発途上国における環境・健康とSDGs



- 13.2 気候変動対策計画
- 13.3 気候変動関連教育、人的能力などの改善



- 12.8 持続的開発・自然調和型ライフスタイル



- 4.7 持続可能な開発のための教育ライフスタイルの推進



- 8.4 環境悪化させない経済成長



- 9.4 資源利用効率の向上とクリーン技術の導入拡大



- 12.4 環境に配慮した廃棄物管理



- 6.2 下水施設・衛生施設へのアクセス

- 6.3 水質の改善

- 6.4 水の利用効率改善

- 6.6 生態系の保護・回復

- 6.a 国際協力と人材育成支援

- 6.b 地域コミュニティの参加を支援

大気汚染改善

ライフスタイル変化

有害物質管理

廃棄物問題改善

都市水環境管理

環境

健康

衛生教育

医療サービス

栄養状態改善



- 3.7 伝染病の根絶や感染症に対処
- 3.8 良質の基礎的保健サービスへのアクセス
- 3.9 汚染による病気等の減少
- 3.c 健財政及び保健人材
- 3.d 早期警告、危険因子緩和・管理能力開発

衛生的居住環境改善



- 15.1 生態系サービスの保全、回復、利用
- 15.4 山地生態系の保全を確保



- 11.3 包括的かつ持続的な都市化を促進
- 11.6 都市の環境上の悪影響を軽減
- 11.7 緑地や公共スペースへのアクセス

SDGs「先進国」の特徴

ー日本との比較においてー

- SDGs「先進国」は政策の統合実施、計画、評価において「実質的」政策手段や省庁間調整プロセスを設置
 - 日本におけるとりあえずの政策の羅列とは大きく異なる
- 予算化などによる政策誘導策を導入する国も
- パートナiership、ステークホルダーとの協働を強調

自然エネルギー財団

<http://www.renewable-ei.org/>

五輪と持続可能な開発目標(SDGs)

ーSDGsによる評価のフィードバックで東京と企業へのチャンス拡大を！ー

http://www.renewable-ei.org/images/pdf/20170223/3_Kanie_20170223.pdf

P33

自然エネルギー財団 <http://www.renewable-ei.org/>

五輪と持続可能な開発目標(SDGs)

—SDGsによる評価のフィードバックで東京と企業へのチャンス拡大を!—

http://www.renewable-ei.org/images/pdf/20170223/3_Kanie_20170223.pdf P24

【8つの優先課題と具体的施策】

①あらゆる人々の活躍の推進

People

②健康・長寿の達成

■一億総活躍社会の実現 ■女性活躍の推進 ■子供の貧困対策 ■障害者の自立と社会参加支援 ■教育の充実

■薬剤耐性対策 ■途上国の感染症対策や保健システム強化、公衆衛生危機への対応 ■アジアの高齢化への対応

③成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション

Prosperity

④持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備

■有望市場の創出 ■農山漁村の振興 ■生産性向上 ■科学技術イノベーション ■持続可能な都市

■国土強靱化の推進・防災 ■水資源開発・水循環の取組 ■質の高いインフラ投資の推進

⑤省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会

Planet

⑥生物多様性、森林、海洋等の環境の保全

■省・再生可能エネルギーの導入・国際展開の推進 ■気候変動対策 ■循環型社会の構築

■環境汚染への対応 ■生物多様性の保全 ■持続可能な森林・海洋・陸上資源

Peace

⑦平和と安全・安心社会の実現

■組織犯罪・人身取引・児童虐待等の対策推進 ■平和構築・復興支援 ■法の支配の促進

Partnership

⑧SDGs実施推進の体制と手段

■マルチステークホルダーパートナーシップ ■国際協力におけるSDGsの主流化 ■途上国のSDGs実施体制支援

- 実施指針の付表において、関係省庁から提出された国内及び国外の140の施策を、可能な限り具体的な指標と共に掲げた。

JICAは10のゴールで中心的役割を果たし より上位の究極的ゴール達成に貢献



作成：JICA

Local(地方自治体)にSDGsを統合する取組みに着目

経済産業省海外展開戦略タスクフォース資料

http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/energy_environment/ondanka_platform/kaigai_tenkai/pdf/005_02_00.pdf P43

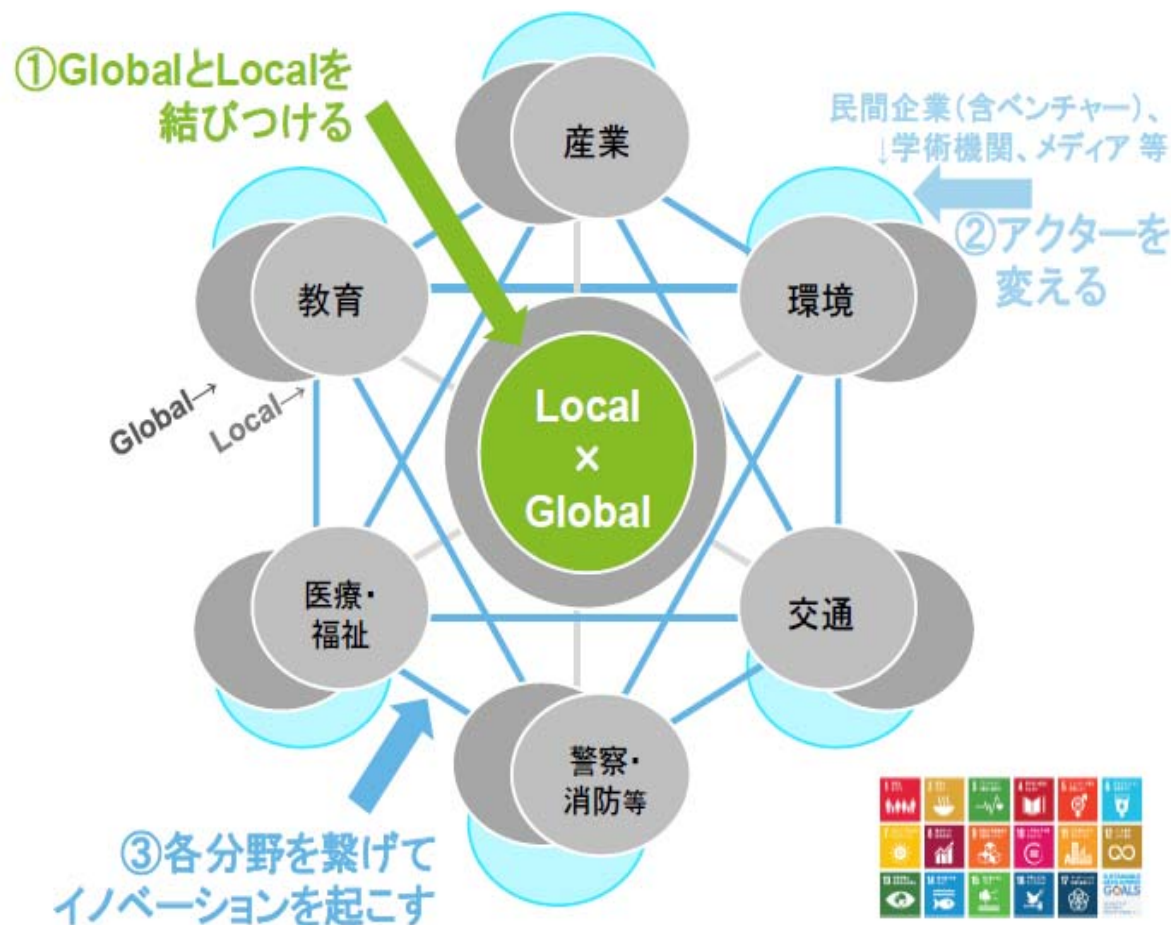
「SDGs × 地方創生」の全体像

従来の地方自治



全ての行政を単独で実施する

国際的な目標導入後の地方自治



地方の限界を超え、新たな社会的価値を創造する

八雲町が今後取り組みたい活動は、SDGsと紐づけることができる

八雲町におけるSDGs取組み案

経済産業省海外展開戦略タスクフォース資料
http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/energy_environment/ondanka_platform/kaigai_tenkai/pdf/005_02_00.pdf P44



南三陸町の自然を活かした地域ブランドづくりに向けて

17 パートナシップで
目標を達成しよう



町の魅力を発信

自然と人の物語
ツールやツアーなど
プログラムで発信

3 すべての人に
健康と福祉を



4 質の高い教育を
みんなに



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



13 気候変動に
具体的な対策を



5 ジェンダー平等を
実現しよう



16 平和と公正を
すべての人に



山里海の 豊かな自然

環境省フィールドミュージアム構想
ラムサール湿地登録
ジオパーク登録

14 海の豊かさを
守ろう



15 陸の豊かさも
守ろう



国際認証の取得

持続可能な経営で
誇りある仕事の
伝統を継承

12 つくる責任
つかう責任



11 住み続けられる
まちづくりを



自然と共生する 暮らし

バイオマス産業都市構想
豊かな食文化と地域資源
生態系の回復力を知る営み

伝統と革新の 地域産業

農林水産、加工、流通
エネルギー、観光、教育
郷土の持つ文化的な価値

生業の創出

8 働きがいも
経済成長も

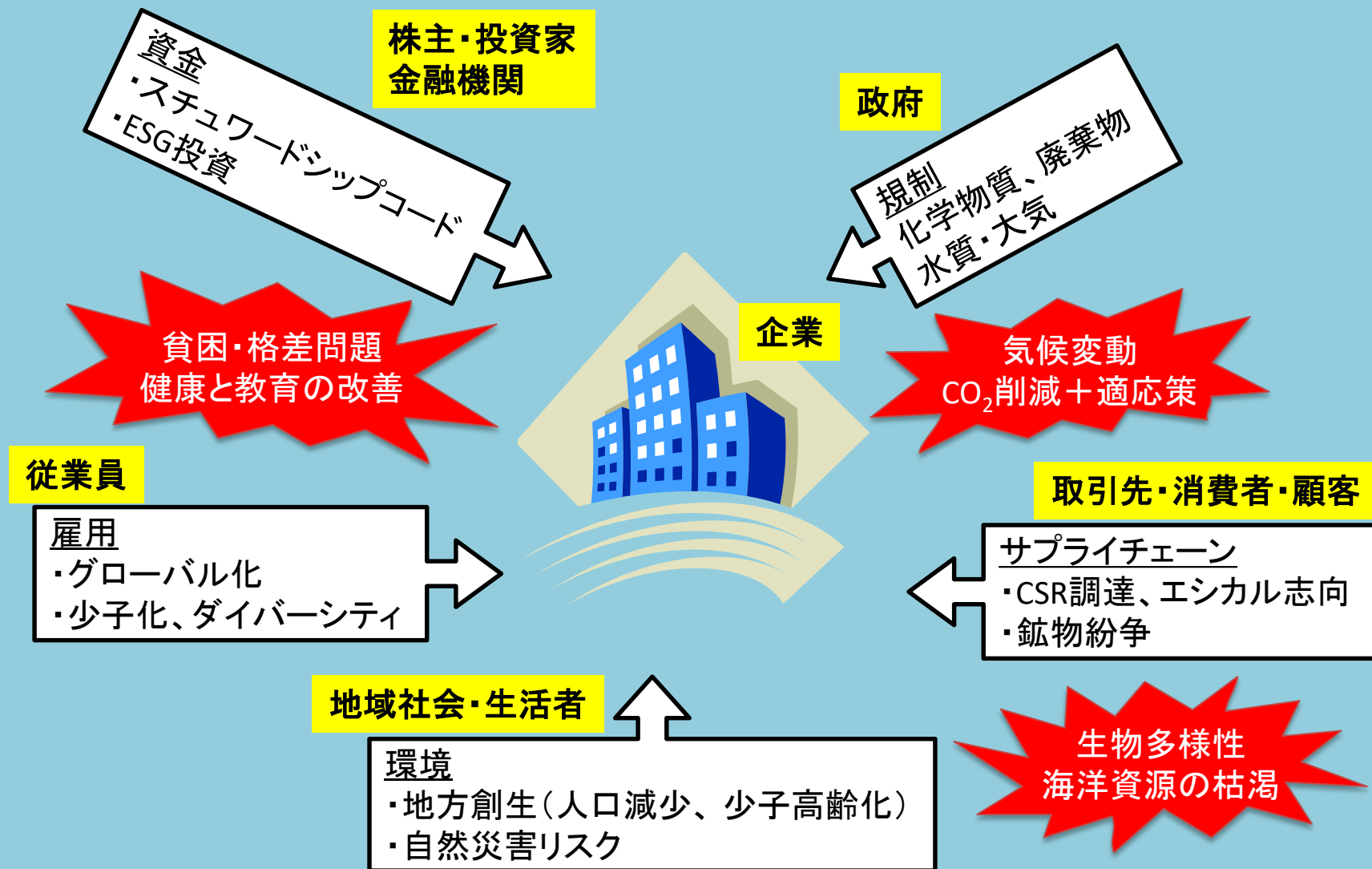


9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



南三陸の魅力を形にして
外部と地域もつなぐ人づくり

企業に影響を与えるステークホルダー



伊藤園の取り組み例



https://www.itoen.co.jp/files/user/pdf/csr/report/sustainability_report_sfe_2016.pdf

経済産業省海外展開戦略タスクフォース資料

http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/energy_environment/ondanka_platform/kaigai_tenkai/pdf/005_02_00.pdf P21

フジゼロックスの例

当社の提供価値とSDGsとのつながり (p.13~14)

経営重点テーマの特定に際し、取り組むべき社会課題がもたらす自社にとっての機会とリスクを分析。また、商品・サービスの提供価値とSDGsとのつながりを整理し、富士ゼロックスが事業を通じて目指すSDGsの最大のゴールは「目標8：働きがいと経済成長の実現」であることを明確化した。



何をすれば良いのか？

ー目標達成へむけたいくつかのヒントー

1. 国連、アジア地域: 新たなグローバル・ガバナンスの構築

- 指標の設定(2017年9月)
- 進捗評価、レビュー(毎年フォーラム開催、2019年には国連総会のもとで包括的評価フォーラム開催)



2. 国(日本): 国内重要課題に焦点を当てた実施

- SDGsを指針とした目標の引き上げ、政策の統合実施、国内指標の設定、認証/表彰制度の設立等
- 持続可能な開発目標推進本部(内閣府)設置(2016年5月)、「実施指針」策定(2016年12月)

3. ステークホルダー: SDG達成へ向けた多様なコラボレーション・イノベーションを期待

- 企業: 先進事例の提示、国際展開、持続可能性報告書や環境報告書等での報告
- 自治体: 地域の重要課題に焦点を当てた実施、独自の指標設定、先進事例の提示、国際展開
- NGO: 実施の監視、企業や自治体の達成度比較評価、目標達成支援、パートナーシップ構築
- その他: 認証制度や評価制度の構築、普及啓発、キャンペーン等

© 蟹江憲史(慶應大学)・国谷裕子(キャスター)



ピアソンは目標と企業活動を結びつけて表現



エリクソンは社内に各目標のアンバサダーを指名

持続可能な世界へ向けての変革

2030年の
世界のあるべき
姿からバック
キャスト

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

指標による評価
で
達成度が比較



SDGsの本質は
経済成長戦略

ご清聴ありがとうございました！

本講義では、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科
蟹江憲史教授から多くの情報提供を得た。